

## 桑田真澄 CBO

校長 武井 正明

私が初めて桑田真澄を見たのは、先日書いた通り、自分が高校卒業の春。

そこから時を経て、再び観たのは1987年7月23日鳥屋野球場、対中日戦。

桑田は先発投手。入団2年目、若きエースへの道を歩き始めた頃。登板を控えた桑田は新潟に前乗りしていた。地元ニュースでは、桑田が鳥屋野球場のマウンドに立ってみて、プレートがしっくりこなかったのが、新品のものに即交換させたという。「巨人軍」という球団の持つ力の大きさに感心したものだ。

当日は快晴、最高気温 35℃。観衆は発表 19000 人。当時にしてみれば灼熱も灼熱、内野の土がカラカラ乾いて、陽炎が立った。

私は大学3年。自転車で球場まで行き、何とかして外野芝生席を手に入れた。

そこでの桑田は凄かった。ストレートはMax150 km（これも当時ではすごい数字。現在の機械で測れば160近く出ていたと思う）守備も上手かった。俊敏な動きで頭上を抜けるゴロを難なく捌き、ただの投ゴロにしていた。中日の四番落合も完璧に抑え込んだ。

結果7-0の完封。投げ終えた桑田は、涼しい顔でヒーローインタビューに答えていた。

その次に観たのは、11年後1998年8月20日東京ドームの対横浜戦。

この試合は、丁度桑田を真正面のパノラマ席から眺める形になった。

するとホームベースのストライクゾーンを、まさにボール半個分を出し入れしているのがわかる見事な制球力だった。この時の1塁は清原和博が守っていた。

そして2009年WBC日韓戦の試合終了後、ゴンドラで解説をしていた桑田を見つけた。

思わず「クワターっ!!」と手を振ると、私の眼を見て頷いてくれた。

桑田真澄…私が敬愛する堀内恒夫の背番号18を引き継いだ、巨人軍のエース。そして私の青春時代のあこがれの人だ。

私は、彼が巨人の二軍監督になった時、桑田らしいな、と思った。着実に一步ずつ階段を上って、桑田が一軍監督になったら絶対ドームに応援に行くからな、と思っていたのに、根拠なき退団。巨人軍は大切な球界の宝を、自ら手放したのだ。

しかし、これも信じられない。

あの、桑田真澄が新潟に来てくれるなんて。でも、いかにも「大地の子」主人公の陸一心のラストみたいで、カッコイイ。やっぱり桑田真澄は、彼の生き方を通して。

桑田みたいに、自分に誠実で真っ直ぐな生き方に、やっぱりあこがれる。

今年は、桑田CBOに会いに、エコスタに行こうと思う。